

道連ニュース

2016年6月号 No.120

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

第60回 道連通常総会を開催

第60回通常総会が6月16日 ホテルポールスター札幌で開催され、7議案すべて全会一致で可決されました。代議員は34名で実出席18名、書面議決16名でした。総会は、議長に遠藤代議員（あさひかわ福祉生協）が選任され、麻田会長理事から会員生協と来賓へのお礼、協同組合の強化の必要性について挨拶がありました。来賓は、北海道環境生活部くらし安全局長の成田氏、北海道労働金庫専務理事の佐藤氏、北海道消費者協会専務理事の矢島氏の3名から挨拶を頂きました。山口専務理事から1号議案から7号議案まで一括して報告及び提案した。続いて、佐藤特定監事が監査報告を行いました。第6号議案では、遠藤康史（札幌医療生協の事務長）理事1名と渡辺直志（北海道医療生協専務理事）・一刀広志（北海道住宅生協常勤理事）監事2名の役員補選を行い、渡辺直志監事が挨拶を行いました。

特別報告として、林理事からコープさっぽろの奨学金署名取り組み報告と川原事務局長からLPガス問題の取り組み報告を行いました。山口専務理事から道連60周年企画について報告し閉会しました。



成田祥介道環境生活部くらし安全局長より、ご挨拶を頂戴しました

《2016年度役員名簿・事務局体制》

会長理事	麻田 信二	(員外)
専務理事	山口 敏文	(員外)
理事	伊藤 完	(北海道学校常勤理事)
理事 (新任)	遠藤 康司	(札幌医療事務長)
理事	岸本 敬一	(北海道大学専務理事)
理事	小松 徹人	(さっぽろ高齢者福祉理事長)
理事	新屋三紀子	(北海道医療総師長)
理事	中島 則裕	(コープさっぽろ専務理事)
理事	林 朋子	(コープさっぽろ理事)
理事	二川 悟	(生活クラブ専務理事)
理事	堀江 修治	(北海道労働者共済専務理事)
特定監事	佐藤 敦紀	(大学生協連北海道事業連合専務理事)
監事 (新任)	渡辺 直志	(北海道医療専務理事)
監事 (新任)	一刀 広志	(北海道勤労者住宅常勤理事)
事務局長	川原 敬伸	
事務局 (新任)	山田 望	
事務局 (新任)	松本 克弘	
事務局 (新任)	小野 弘也	

認知症 早めに発見

労金 端末寄贈～8市町で活用へ

受贈者挨拶

特定非営利活動法人ソーシャルビジネス推進センター理事長

相内 俊一

このたびは、認知症予防を進めるうえに不可欠な、タブレット型認知機能測定器を贈呈いただき、心からの感謝を申し上げます。大変高価な機材であるため、私ども NPO がこれを備えることは容易ではありません。このようなご支援をいただき、認知症予防への取り組みにこれまで以上に熱心に取り組まねばと、心を新たにしております

しかし、本当に何よりも嬉しく、また、感謝していますのは、高価な機器をお贈りいただいたことにはありません。機器の購入という行為に限れば、借金をしても実現することができます。

わたくしたちの社会は、すでに猛烈なスピードで超高齢社会になり、いわゆる団塊の世代が70歳代に差し掛かっています。そして、認知症と診断された人だけでその数が2012年に460万人、その予備軍といわれる軽度認知障害の状態にある人たちの実態については良く分かっていません。この軽度認知障害の人たちは、何も対策を講じなければその7、8割がアルツハイマー型認知症を発症すると言われています。

にもかかわらず、わたくしたちの政府は、国も、北海道も、政策として軽度認知障害の人を早期に発見し、その人たちに有効な認知機能維持のプログラムを提供する政策を講じていません。「認知症になっても安心して住めるまちづくり」をすすめようと

はしても、「認知症にならずにすむ社会のしくみづくり」を進めていないのです。医療機関も、介護保険機関も、認知症予防に熱心になりません。それは、現行の制度では、持ち出しになるばかりで何の給付も受けられないからです。

わが国の認知症発症者の7割近くを占める、アルツハイマー型と脳血管障害型の認知症は、近年の医学的研究で予防効果が期待されることがわかっています。早期に軽度認知障害にある人たちを見つけ、その人たちに適切な運動プログラムなどへの参加を促すことで、放置すれば認知症を発症する可能性が高い人たちの多くに対し、認知機能を維持、さらには改善させて発症を遅らせることができるのです。行うべきことを知っていながら、政治の怠慢を嘆いて手をこまねいているのではなく、社会的な責任を大切に思う者たちが連帯して課題に取り組まねばなりません。

本日何よりも感謝申し上げたいのは、北海道労働金庫様が「認知症予防」の緊急性を理解してくださり、直面する喫緊の課題に積極的に取り組む姿勢をお示しくくださったことに対してでございます。ろうきん様が、認知症予防に対して深くご理解くださり、その推進活動の列に加わってくださいましたことに心からの敬意を表し、感謝と期待を申し上げて、お礼の言葉とさせていただきます。



高柳薫理事長(右)からタブレット端末を受け取る NPO 法人の相内俊一理事長